

県土整備観光委員会・県外視察報告

1 調査日

令和元年8月27日（火）～令和元年8月29日（木）

2 出席委員等

藪田 栄治 委員長、針山 健史 副委員長、横山 栄 委員、火爪 弘子 委員、
永森 直人 委員、川上 浩 委員、澤崎 豊 委員
(その他、執行部が参加)

3 調査の概要

○令和元年8月27日（火）

(1) 函館市役所

調査項目： ①観光振興について
②クルーズ船の誘致について

応対者： ①函館市観光部観光誘致課
②函館市港湾空港部港湾空港振興課

内 容：函館市の観光振興とクルーズ船誘致の取り組みについて調査を行った。

①函館市では、観光推進体制の強化、観光力の向上、魅力発信と誘客促進、地域間連携の強化などに取り組んでいる。令和元年度は、近年の施策の中で効果が大きかった楽天やじゃらん等のOTA（Online Travel Agent）サイトへの広告に注力している。

②函館港に寄港するクルーズ船は近年増加しており、2019年の寄港回数は53回を見込んでいる。乗客向けの観光案内業務を平成26年度から（一財）北海道交流センターに委託しているほか、「いか踊り」でのお見送りや地元高校生による通訳など、ボランティアによる「おもてなし」を行っている。また、地域でのマーケット創出のため、函館市民向けの函館港発着クルーズ船を企画して実施している。



函館市役所にて

(2) 函館港

調査項目：クルーズ船受入環境の整備について

対応者：函館市港湾空港部港湾空港振興課

内 容：函館港（若松埠頭）を見学し、クルーズ船受入環境の整備について調査を行った。

従来は、市中心部から車で 15 分程度かかる港町埠頭を中心にクルーズ船を受け入れていたが、平成 30 年 10 月から、市中心部に近い若松埠頭に 4 万トン級のクルーズ客船まで着岸できる岸壁を新たに整備して暫定供用している。

現在は、若松埠頭をしゅんせつし、2020 年代早々に 11 万トンクラスの大型船が着岸できるよう整備を続けており、市中心部へのアクセスが大幅に改善する見込みである。



函館港（若松埠頭）
にて

○令和元年 8 月 28 日（水）

(3) 函館アリーナ

調査項目：イベント・コンベンション施設の整備及び運営について

対応者：・函館市教育委員会生涯学習部スポーツ振興課

・公益財団法人 函館市文化・スポーツ振興財団

内 容：函館アリーナの施設を見学し、イベント・コンベンション施設の整備及び運営について調査を行った。

函館アリーナは、老朽化した函館市民体育館に替わる施設として整備され、大規模なスポーツ大会のほか、各種コンベンションの開催も可能な約 5,000 人規模（メインアリーナの固定観客席数は 2,120 人）の多目的施設として、北海道新幹線の開業年度である平成 27 年 8 月に開館した。以来、平成 27 年 10 月の全国自治体病院学会（参加者約 3,600 人）、平成 29 年 9 月の日本診療放射線技師学術大会（参加者約 1,800 人）等のコンベンション開催実績がある。



函館アリーナにて

(4) 渡島総合振興局

調査項目： ①北海道新幹線開業を踏まえた広域観光の取り組みについて

②新幹線駅からの二次交通の整備について

応対者： ①渡島総合振興局産業振興部商工労働観光課

②渡島総合振興局地域創生部地域政策課、
渡島総合振興局函館建設管理部事業室道路課

内 容：渡島総合振興局の北海道新幹線開業を踏まえた広域観光の取り組みと新幹線駅からの二次交通の整備について調査を行った。

①道南地域は、「函館」と国定公園「大沼」以外の認知度が低く、単独では観光客の目的地となり得る場所が少ないことから、道南地域の4つの広域観光協議会を主体として観光地づくりや観光地域プラットフォームの確立に向けて取り組みを進めている。近年は教育旅行の誘致や、青森県と共同した観光キャンペーンなどを行っている。

②渡島総合振興局では、平成28年3月の北海道新幹線の新函館北斗駅までの開業に合わせて、新駅へのアクセス道路の整備、並行在来線の道南いさりび鉄道への移管、新駅から周辺観光地への路線バスや定期観光バスなどの二次交通の整備を行っている。



渡島総合振興局にて

(5) モエレ沼公園

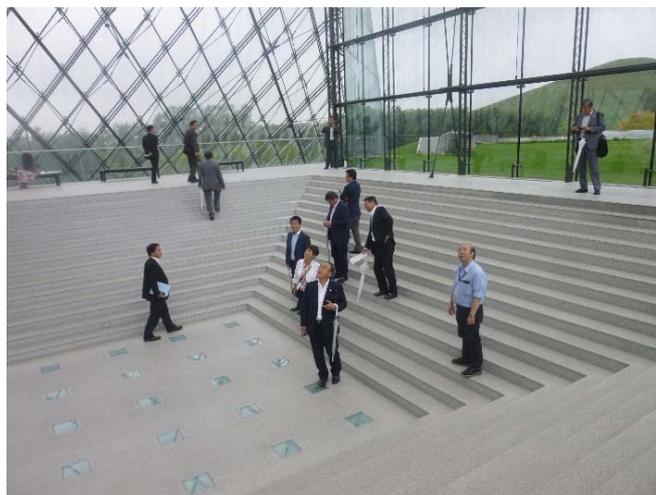
調査項目：雪氷熱利用や一時雨水貯留機能など多機能な都市公園の整備について

応対者： 公益財団法人 札幌市公園緑化協会

内 容：モエレ沼公園を見学し、貯雪庫に蓄えた雪の雪氷熱を利用した冷房システムや一時雨水貯留機能について調査を行った。モエレ沼公園は、ごみ処理場を、ごみの埋め立て後に公園に造成するという土地の複合利用事業として整備された。世界的な彫刻家イサム・ノグチが基本設計を手がけ、「全体をひとつの彫刻作品とする」というコンセプトのもとに造成されており、イサム・ノグチの知名度により外国人の来園者も多い。施設内の冷房システムとして貯雪庫に蓄えた雪氷熱を利用しているほか、洪水時にはゲートを封鎖して一時貯留池となるなど、多機能な総合公園である。



モエレ沼公園にて



○令和元年8月29日(木)

(6) 北海道庁

調査項目：災害復旧事業及び土砂災害対策について

①平成28年8月及び平成30年7月北海道豪雨災害について

②北海道胆振東部地震について

応対者：北海道建設部土木局河川砂防課

内 容：北海道の災害対策事業及び土砂災害対策について調査を行った。

①平成30年7月豪雨では、石狩水系ペーパン川の氾濫、一般道道天人峡美瑛線での道路浸食、一般道道遠軽芭露線いわね大橋の橋脚沈下など各地で被害が発生した。

ペーパン川は平成28年8月豪雨でも氾濫しており、原形復旧では今後同じような豪雨が発生した場合に再び氾濫する恐れがあるため、北海道では、ペーパン川を含む3個所で災害復旧費に改良費を加えた改良復旧事業を行っている。

②平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震では、マグニチュード6.7、最大震度7を観測し、6,000個所以上で斜面崩壊が発生するなど甚大な被害が発生した。

この地震の特徴として、火山灰が堆積した山腹では、勾配15度程度の緩い斜面でも崩壊が発生している。

被災した市町村では災害復旧事業に係る土木技術職員が足りないため、24個所、約54億円分の災害復旧工事を道が代行事業として執行している。

また、災害復旧事業には約200社の土木業者が参加しており、関係者間で工事の課題などを情報共有するためにスマホアプリを活用している。



北海道庁にて